

# 第3次豊田市教育行政計画の進捗状況 及び 点検・評価報告書【概要版】



## I 第3次豊田市教育行政計画の進捗状況

### 1 事業の成果及び取組状況

#### (1) 重点事業における成果指標の達成度

重点事業全15事業のうち、成果指標の達成度について、大変良い(◎)が4事業、良い(○)が11事業となっています。

	◎大変良い	○良い	△改善を要する
重点事業	4 (27%)	11 (73%)	0 (0%)

#### (2) 計画全体の進捗状況

重点事業と基本施策事業を合わせた全70事業のうち、分野別の進捗状況は以下のとおりです。分野ごとにみると、学び・育ち分野は80%、スポーツ分野は63%、歴史・文化分野は96%の事業が順調に進んでいます。(完了した事業を含む)。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期・中止となった事業が2事業あります。

	A 予定通り	B やや遅れ	C 遅れ	D 完了	E その他
学び・育ち	30	7	0	2	1
スポーツ	4	2	0	1	1
歴史・文化	18	1	0	3	0
全 体	52 (74%)	10 (14%)	0 (0%)	6 (9%)	2 (3%)

#### (参考) 進捗状況の区分

年度ごとの取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分しています。

区 分	進捗目安
A：予定通り	90%以上
B：やや遅れ	50%以上 90%未満
C：遅れ	50%未満
D：完了	完了
E：その他	延期・廃止等

## II 点検・評価報告書

### 1 点検・評価の概要と流れ

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について学識経験者等の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされています。

豊田市教育委員会では法の趣旨を踏まえ、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の点検・評価を実施しています。

今年度は、「第3次豊田市教育行政計画」(平成30年度～令和3年度)の進捗状況の確認の意味を含め、重点事業3事業と基本施策2事業の計5事業を対象としました。

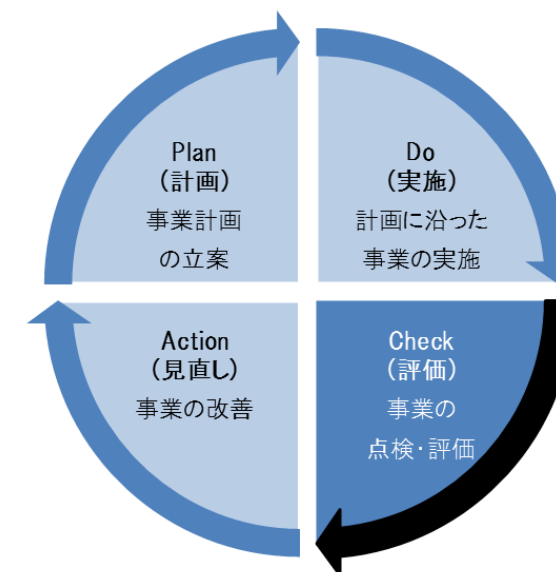
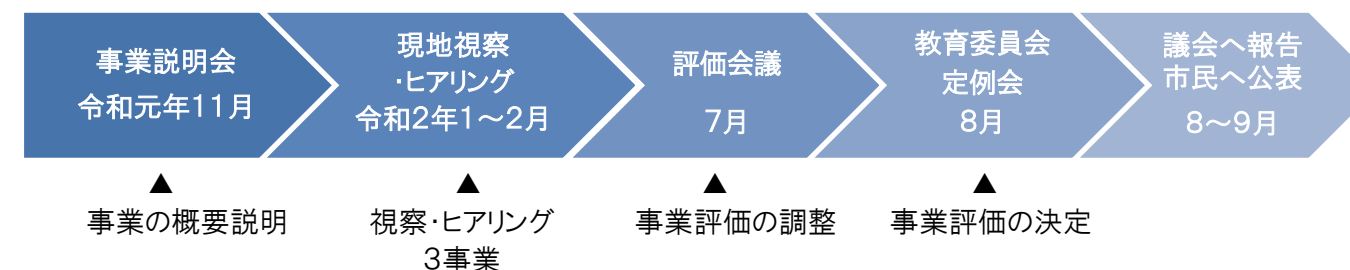


図. PDCAサイクルにおける点検・評価の位置づけ



### 2 点検・評価の実施方法

第3次豊田市教育行政計画の重点事業3事業と基本施策2事業の計5事業に対して、点検及び評価を実施しました。事業実績を振り返ることにより、成果を上げる方策や改善策を検討し、教育行政の課題解決のために、より効果的な事業へと向上させる観点で実施しています。

#### <現地視察・ヒアリングの様子>



いじめ・不登校対策事業



若者サポートステーション事業



科学技術教育推進事業

### 3 評価結果(概要)

<総合評価> ◎:大変良い ○:良い △:改善を要する

#### (1) いじめ・不登校対策事業(学校教育課)

##### 【事業概要】

いじめの未然防止や早期発見・早期対応、不登校児童生徒の社会的自立支援などに向けて、スクールカウンセラーや青少年相談員、スクールソーシャルワーカーの派遣、教員研修、いじめ問題対策の点検・見直し、適応指導教室の活動内容の充実などに取り組む。

##### 【評価結果】

○

- ・計画、制度、施設などの体制は良く整っているが、それを理想的な形で運用するためには十分な人員配置が欠かせない。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、心の相談員などを継続的に安定して確保できるような対策が望まれる。
- ・いじめや不登校に対しては、早期対応や未然防止が重要であり、保護者や地域、学校との連携を強化し、多彩な人材がサポートできるような環境づくりが必要と感じる。

#### (2) ICT活用・整備推進事業(学校教育課)

##### 【事業概要】

ICTを活用した「分かる・深まる授業づくり」を推進するために、授業スタイルの改善及びICT機器の整備を推進する。

##### 【評価結果】

○

- ・世界的に見た日本において、また豊田市においてもICTを活用した教育は決して進んでいる状態ではなく、ICT活用・整備推進事業は積極的に行っていただきたい。ただし、ICTを活用した教育は学校教育の中の手段の一つであり、目的ではない。ICTを活用した教育によって、子どもたちの将来のあるべき姿をしっかりと見据えて行っていくことが肝要である。
- ・教員の大きな役割は、各生徒と向き合い、生徒の実情を把握し、一人ひとりの学びを確かなものにする事であると思う。機器の操作やプログラミング教育の技術習得などプロに任せる分野、動画など民間・既存の教材を利用できる分野、教員が自ら関わる分野の役割を分けて考え、効果的に資金や時間、人材を活用してほしい。

#### (3) 学び続ける教員の育成推進事業(学校教育課)

##### 【事業概要】

教員人材育成プランに基づき、校内OJTの推進、e-ラーニングを活用した研修、キャリアステージに応じた研修を計画し、教員評価制度を活用しながら、教員のキャリアアップを図る。さらに、多忙化解消プランに基づき、合理的・効率的に働く仕組みを構築し、自己啓発等の研修時間を保障する。

##### 【評価結果】

○

- ・担当課からの報告によれば、研修の成果が現場では十分に活かされていない可能性があるため、その理由と実態を精査し、研修内容や方法を見直す必要がある。教員一人ひとりが、資質の向上という意識を明確に持つことが重要である。
- ・教師は様々な出会いによって育つとも言われるが、学校や教育委員会で行われる研修は、やや外部との接点は少ないように感じる。今後の新たな教師の価値観を生むためにも、地域経済界や地域社会との連携を深めていくことも重要である。
- ・多忙化解消のための業務の合理化・効率化には、今後も積極的に取り組み、教職員の心の多忙感を減らすことによって、本来すべき豊かな教育活動ができるようにしていただきたい。

#### (4) 若者サポートステーション事業(次世代育成課)

##### 【事業概要】

自立に困難を抱える若者が就労や社会参加等を行うため、関係機関による包括的な体制で自立に向けた支援を実施する。

##### 【評価結果】

○

- ・職業や働き方が非常に多様化してきている現在において、自立が困難な若者が就労や社会参加できる機会は必ずあると考えられる。このような場所で、若者が社会に出て自立するための基本的な能力やマナーを身につけておく必要がある。また、こうした若者の受け皿となる商工会議所などの民間団体との日頃の情報交換も行うべきである。
- ・当事業は運営するNPOや地域の企業など、各方面の力を合わせて成り立っている。社会、経済の状況変化により支援を必要とする若者や企業の協力のバランスに変化があった場合でも、継続が必要な事業である。
- ・支援相談に来られない人についても、広報活動に力を入れたり、関係機関との連携を密にするなど、今まで以上にアプローチに力を入れていただきたい。

#### (5) 科学技術教育推進事業(市民活躍支援課)

##### 【事業概要】

主に中学生・高校生を対象とし、企業、大学、関係団体等と連携したハイレベルのものづくり・科学講座等の開催や生徒の活躍を支援する。

##### 【評価結果】

◎

- ・ものづくり産業が基本である本市においてこの事業の果たす役割はとても重要で、実際に行っている活動も非常に高度なものであり、評価したい。また、この活動をサポートしている皆さんの能力や熱意には大変敬意を表すが、もっと多くの人たちに広まり、事業が拡大していくことを期待したい。
- ・高い技術力を持った人材の育成に大変有意義な取組であると思う。学校の授業の中だけでは、子どもたちのより深く学びたいという思いに対応しきれないと思うので、将来にわたって高い技術力を維持発展させていくためにも、今後も高い科学技術に触れる機会を増やしてほしい。
- ・各講座の成果が、他の児童生徒と先生方にフィードバックされ、学校活動だけではなく、授業内容に反映されるような仕組みが出来ることが望まれる。

(担当)豊田市教育委員会 教育部 教育政策課

TEL:0565-34-6658 FAX:0565-34-6771 E-mail:[kyouiku@city.toyota.aichi.jp](mailto:kyouiku@city.toyota.aichi.jp)